

日本視機能看護学会

会報 第 22 号



一般社団法人

日本視機能看護学会

Japan Academy of Ophthalmic Nursing

目次

1. 理事長あいさつ
2. 第13回 Tokyo Eye Festival・第3回東京ロービジョンサポートフェアに参加して
3. 第41回日本視機能看護学会学術総会を終えて
4. 第42回日本視機能看護学会学術総会開催にあたり
5. 第17回日本視機能看護学会地方分科会を開催して
6. 第18回日本視機能看護学会地方分科会のご案内
7. 日本視機能看護学会 Zoom 意見交換会（会員交流会・セミナー交流会）報告
8. 2025年度ナーシングプログラム報告
9. 学会誌『日本視機能看護学会誌』第11巻より完全電子ジャーナル（Web発行）への移行のお知らせ
10. 編集委員会より皆様へのお願い
11. 資格認定に関するアンケート調査結果のご報告
12. 会員アンケートのお願い
13. 2026年度 事業計画書
14. 編集後記

ご挨拶

日本視機能看護学会

理事長 永野美香

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

この度の能登半島地震をはじめ、三陸沖や北海道など各地で相次いで発生しております大規模な地震、火災、山火事などの災害により、被災されました皆様、ならびにそのご家族の皆様にお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興と、皆様の安全が確保されますことを心よりお祈り申し上げます。

私ども日本視機能看護学会といたしましても、看護の立場から被災地の皆様にできることを考え、視機能看護の支援体制についても改めて検討してまいります。

平素より日本視機能看護学会の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。さて、2024年の法人化から一年余りが経過し、学会としての体制も一層充実してまいりました。昨年開催いたしました第41回日本視機能看護学会学術総会では、多くの皆様にご参加いただき、活発な意見交換と温かな交流が行われ、実り多い学びの場となりました。ご尽力いただきました先進会眼科の岡 義隆先生、中山 麻沙美統括師長様をはじめご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

また、第17回地方分科会（東京開催）では、貴重なご講演のみならず、対面でのグループワークを通して現場の課題や取り組みを共有し、今後の活動に繋がる有意義な意見を多数いただきました。ご参加くださった皆様に重ねて感謝申し上げます。

今年度の運営計画としては、第42回学術総会は小沢眼科内科病院様の主管にて、水戸での開催を予定しております。今年もたくさんの皆様のご参加により現地で交流ができる事を願っております。また、学術総会にてお伝えいたしましたが、本学会では、資格認定制度に向けた準備委員会を立ち上げ、制度設計に関する協議を重ねてまいります。視機能看護の専門性を広く発信し、より良い看護の提供につながる仕組みづくりを目指して、学会として一步を踏み出す年となります。

視機能看護を取り巻く医療環境は日々変化しておりますが、私たちは引き続き「専門性の向上」と「組織力の強化」を柱に、教育企画や学術交流の充実を図ってまいります。看護職としての役割を改めて見つめ直し、患者の視機能を守る専門職としての使命を共有しながら、次の世代へと確かな歩みを進めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、これまで当会を温かく支えて頂きました日本眼科医会、各地の眼科医師会の先生方、賛助会員の皆様、ならびに学会運営にご協力くださいましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第13回 Tokyo Eye Festival・第3回東京ロービジョンサポートフェアに参加して

井上眼科病院

大音清香

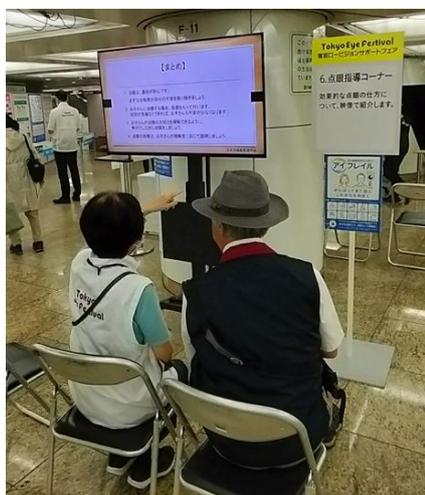
今年も10月4日(土)～5日(日)、新宿駅西口広場イベントコーナーにおいて、第13回 Tokyo Eye Festival・第3回東京ロービジョンサポートフェアが開催されました。この2日間、猛暑は一段落して漸く穏やかな日和となり約1,700名の方々がこの催物に足を運ばれました。

Tokyo Eye Festivalは“目の愛護デー”にちなんで東京都眼科医会では、東京都と共催して今では恒例行事となっています。また付随してロービジョンサポートフェアにおいても福祉団体、関連する企業なども参加されてロービジョンケアへの認識を深めていくように多くの方々に働きかけられています。

会場では眼科に関連の製薬会社や各企業、福祉団体、盲学校などがコーナーを設置されて動画、資料展示、また実際に目の相談や検査コーナー、盲導犬体験など、来場された方が楽しみと共に目の学びも深められるように、あちこちで工夫が見受けられます。

日本視機能看護学会では、“目の愛護”をどのように看護として繋がりができるかを模索して点眼指導を中心とした点眼コーナーを設定。来場者には動画を供覧して個別の質問に応じて説明や、また日常生活のアドバイスなど、見えづらさから生じる不安などについても対応しています。中には長年緑内障で眼科受診しているが、点眼の仕方を教わったことがなく、自己流で心配だったと、非常に熱心に動画を視聴されていた男性の方。また自分の点眼の仕方に問題がないか見て欲しいと確認を希望するご高齢の方など、大変動画に関心を寄せていただきました。また徐々に見えづらくなってきており、この先が不安等を訴える方には目の相談コーナーやロービジョンケアのコーナーへも案内して、少しでも不安の軽減に繋がればと思います。

この会場ではスタンプラリーも人気があり、粗品を求める方も多いですが、眼の愛護に相応しく、アイフレイルのことで、またこれからの目の予防など、老若男女それぞれが目を大切にされていかれることを願っております。来年も10月3日(土)～4日(日)にはこの会場で開催予定とされています。



第 41 回日本視機能看護学会学術総会を終えて

第 41 回日本視機能看護学会学術総会

会長 中山麻沙美

10月中旬、大阪・関西万博に世界中の英知が集まる中、梅田サウスツインタワーズにて学術総会を開催致しました。多くの方にご参加頂き、たくさんの方々と共に無事終えることが出来ました。

数年間、世界的パンデミックに晒され、学ぶこと、未来を想像すること、人との関わり、その殆どが止まってしまいました。今学会では止まってしまっていた医療者皆様の探求心・向上心を分かち合い、医療への希望を持って未来へ歩んで欲しいと考え様々なプログラムを企画致しました。

特別講演では「最先端治療～カッティングエッジ～」をテーマに様々な専門分野のスペシャリストの先生方にご講演頂きました。各疾患の早期診断から最新の治療法まで普段なかなか耳にする機会が少ない新しい医療について学ぶことができ、医療の進歩と進化を実感出来たのではないのでしょうか。これを機にまだ私たちの知らない眼科看護の携わり方があることにとても興味深く探求心をそそられました。

招待講演では「患者満足度向上」、シンポジウムでは「多焦点 IOL のカウンセリング」や「国際ボランティア手術」についてなど眼科看護としては特徴のあるプログラムを取り上げました。セミナーでは、近年深刻化し問題視されているハラスメントについて正しい知識と対処法を学び、また消毒・洗浄・滅菌については初心に戻り正しい知識を振り返ることができました。

今学会で参加者の皆様が一つでも多くの発見をし興味を持ち、実践へ繋げて頂くことが本学会の成功と考えております。今出来ること・この先出来ることを想像し、今学会で得た知識を存分に発揮して頂きますと幸いです。

今学会を開催するにあたり、座長や講師と多大なるご協力を賜りました先生方、お力添えを頂きました協賛企業の方、支えて下さいました関係者各位の皆様にご心より感謝と御礼申し上げます。

最後に、日本視機能看護学会の更なるご発展とご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



集合写真



一般口演座長賞授与式

第 42 回 日本視機能看護学会学術総会開催にあたり

第 42 回 日本視機能看護学会学術総会

会長 大津 恵美子

この度、第 42 回日本視機能看護学会学術総会を、2026 年 11 月 22 日（日）・23 日（月・祝）の会期にて茨城県水戸市で開催できますことは、誠に光栄に存じます。ここに、関係各位の皆さまに心より御礼申し上げます。

第 42 回学術総会のテーマは

「人工知能と眼科看護の未来 ～よりそう心とつながる愛～」

といたしました。

いわゆる「2040 年問題」に象徴されるように、日本が超高齢化社会に直面する中で生じるさまざまな課題は、医学界においても深刻であり、将来的な医療・介護体制の維持が危惧されております。AI 技術の進展により社会構造や働き方が大きく変化する一方で、看護は AI 搭載ロボットに代替されることのない、最後まで“人”が担うべき専門職であると広く認識されています。看護の基本である「患者に寄り添う心」は、「人」である患者と向き合い、その思いを受け止める「人」である看護師にしか果たせない役割です。だからこそ私たち看護職は、看護の原点を改めて胸に刻み、未来を見据えながら歩み続けることが求められています。

本総会では、眼科医療を学びつつ最新テクノロジーに触れ、看護師としての知識を深め、チーム医療の一員として活躍する力を高められるよう、今一度“患者に寄り添う看護”を見つめ直す場となることを願っております。特別講演、招待講演、シンポジウム、各種セミナーを通じ、参加者の皆さまにとって実り多い学びの機会となるよう、鋭意準備を進めております。

開催地・水戸市は、歴史・文化・芸術と自然が調和した魅力あふれる街です。学びと交流を深めるとともに、豊かな自然や文化に触れていただければ幸いです。

ご参加くださる皆さまと共に、眼科看護の未来を見据え、新たな一步を踏み出す総会となるよう、スタッフ一同、万全の準備を進めてまいります。多数の皆さまのご参加と、素晴らしい演題のご応募を心よりお願い申し上げます。

第 42 回 日本視機能看護学会学術総会のお知らせ

- 日 時 2026 年 11 月 22 日（日）～23 日（月・祝）
- 会 長 大津 恵美子（医療法人 小沢眼科内科病院 看護部長）
- 主管責任者 田中 裕一郎（医療法人 小沢眼科内科病院 院長）
- 場 所 水戸市民会館
- ホームページ <https://convention.jtbcom.co.jp/2026jaon/>
- テー マ 人工知能と眼科看護の未来 ～よりそう心とつながる愛～
- 学会事務局 医療法人 小沢眼科内科病院
- 運営事務局 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

第17回日本視機能看護学会地方分科会を開催して

井上眼科病院

大音清香

例年海の日に開催していた地方分科会は、今年は猛暑が心配されて6月15日（日）

東京、お茶の水ソラシティカンファレンスルーム内のテラスルームで開催した。

この地方分科会は約30年前から開催している。それは当時、眼科看護研究会（現在の日本視機能看護学会）は2日間関東地区での開催が多く、参加が難しい方のために1日間（約6時間）として、各地でこの眼科看護研究会を多くの方に知っていただきたく、会場探しに点々と奔走し開催してきた。そのため毎年の開催とはいかず、2-3年延期という事態もあった。しかし参加者からは、当研究会に深く関心を寄せられ、また是非参加したいという声が多くあった。開催するには眼科関連企業にもお願いに上がり、また各地の大学教授や眼科病院の院長先生方のご支援をお願いのため、何度も足を運んだことは今では懐かしい。

今年は10年ぶりに東京を会場として、特別講演2題、グループワークのプログラムとした。特別講演の座長は井上賢治先生（井上眼科病院理事長）。現在関心の高いテーマとして、「事例によるロービジョンケアの展開」について、鶴岡三恵子先生（井上眼科病院）。ロービジョンケアの基礎編～上級編迄、眼科疾患のみならず基礎疾患や認知症の伴う事例から、どのようなケアが必要かについてQ&A形式で分かりやすくご講演された。

また失明の原因として関心の高まっている「緑内障 Update～コメディカルに知っておいてほしいこと」について、斎藤雄太先生（昭和医科大学眼科学講座准教授）に、疾患の病態生理の説明から現在の最新検査法、外科的治療や点眼法など看護師として必要なケアについて丁寧に分かりやすくご講演いただいた。

午後の時間帯は、グループワーク。これはテーマ別（事前に希望を伺ったテーマから、点眼指導、感染対策、患者に寄り添う看護、高齢者の患者指導の4つ）のグループに分けて、それぞれの自部署の紹介、眼科看護としての問題など大いにディスカッションを行い、まとめとして各グループが発表した。参加者からは大いに盛り上がり、是非継続していただきたいとのご意見が多かった。施設により、感染対策の方法や消毒薬において相違が発覚し、ガイドラインの共有化や、高齢化の問題は深刻で、特に適切な点眼法においては独居、認知症患者では点眼の協力が得られないため、手術困難な事例など社会的問題が絡み合い、様々な連携を検討していく必要が感じられた。次への課題を探りながら、プログラムを吟味したい。



(写真3枚：特別講演講師と幹事、グループワーク、参加者記念撮影から)

第 18 回日本視機能看護学会地方分科会のご案内

■日時：2026 年 6 月 14 日（日）10：00～15：00

■会場：医療法人真生会 真生会富山病院 5 階大講堂（現地開催のみ）

富山県射水市下若 89-10 [TEL:0766-52-2156](tel:0766-52-2156)（代表）

■共催：日本視機能看護学会・参天製薬株式会社

■定員：50 名（先着）

■参加費：会員無料、非会員 2,000 円

■プログラム

【第 1 部】講演

- （1）講演 1 「今の白内障手術、ここがポイント～疾患、治療、眼内レンズの種類・選定～」(案)
- （2）講演 2 「検査データから患者さんの見え方を読み取り、ロービジョンケアにつなげる」(案)
- （3）講演 3 「近視進行抑制治療について～検査・診察・診断・処方～」(案)

【第 2 部】

グループワーク（ご希望のテーマごとにグループワーク）

テーマ（案）：

- （1）感染対策：眼科における感染対策のポイント
- （2）退院支援：社会的資源を必要とする患者へのサポート
- （3）認知症患者の継続看護：点眼指導など認知症患者への対応ポイント
- （4）皮膚トラブルの看護・スキンケア：体位制限患者の皮膚トラブル、医療機器関連褥瘡予防
- （5）手術室関連：器材管理、 Disposable 器材の管理のポイント

疾患の知識と治療の理解、視機能看護のやりがいを深める内容など、視機能看護に携わる方々にとって、身近に関心が持てる企画にしていきたいと思っております。みなさんと豊かな学びを得られたら幸いです。富山でお待ちしています。

詳細およびお申込み方法については、日本視機能看護学会ホームページにお知らせ予定です。

日本視機能看護学会 Zoom 意見交換会（会員交流会・セミナー交流会） 報告

【第 24 回】 （セミナー交流会）（2025 年 1 月 18 日）

「現場で抱えるロービジョン者の問題～看護師ができるケアとは～」

講師：高橋 広先生（北九州市福祉事業団 北九州市立総合療育センター眼科）

【第 25 回】 （セミナー交流会） （2025 年 2 月 22 日）

「緑内障患者さんの点眼アドヒアランスについて」

～看護アセスメントを点眼アドヒアランス改善に活かす～

講師：松尾 和枝先生（九州大学大学院医学研究院保健学部門 講師）

【第 26 回】 （意見交換会）（2025 年 5 月 10 日）

眼科周術期の術後指導について～点眼指導や生活指導の工夫について～

【第 27 回】 （意見交換会）（2025 年 8 月 2 日）

「周術期看護～手術時の緊張緩和に対するアプローチ」

【第 28 回】 （感染対策セミナー）（2025 年 9 月 6 日）

「眼科手術における医療機器の洗浄、消毒、滅菌の特徴について」

講師：細田清美先生（福井県済生会病院 感染対策室 感染管理特定認定看護師 HAICS 研究会アドバイザー）

アドバイザー：小野和代先生（東京科学大学病院 副看護部長感染管理認定看護師 HAICS 研究会アドバイザー）

【第 29 回】 （セミナー交流会） （2025 年 11 月 15 日）

「続・ロービジョンケアにおける看護師の役割について」

講師：高橋 広先生（北九州市福祉事業団 北九州市立総合療育センター眼科）

2025 年も、セミナー交流会および意見交換会を中心として、視機能看護における課題の共有と学びを深める機会を企画いたしました。今年度も、各施設での取り組みや悩みを共有し、「ひとりで悩まない、施設で悩まない」というテーマのもと、日々の看護実践に繋がる多くの学びを得ることができました。

第 24 回のロービジョンケアについてのセミナー交流会では、高橋広先生よりご講演を頂き、NHK E テレの番組視聴を通して“見えないとは何か”をあらためて考える機会となりました。また、ご要望の多かった Milook アプリの使用方法についてもご教示いただき、患者さんの見え方を共有しやすいツールとして大変参考になる内容となりました。第 25 回では、初めて点眼アドヒアランスをテーマにセミナ

一交流会を開催し、松尾和枝先生より POAG 患者を対象とした介入研究や治療中断理由の探究結果をご紹介いただきました。看護アセスメントの重要性や、アセスメントツールの必要性について意見が交わされ、視機能看護における看護介入の方向性について多くの示唆を頂きました。第 26 回意見交換会では、術後の生活指導や点眼指導について、実際に使用している説明用紙や工夫点を持ち寄り共有しました。認知症患者さんへの介入の難しさは共通の課題として挙がり、地域連携や退院支援に関する企画の継続を希望する声も寄せられました。第 27 回では、周術期の緊張緩和について、薬剤の使用状況や術前・術中の看護アプローチが共有されました。タッチングに関するトラブル事例や、体位調整を写真など具体的なツールで情報共有する工夫が報告され、患者に寄り添ったケアの重要性について意見が交わされました。第 28 回の感染対策セミナーでは、眼科手術における機器の洗浄・消毒・滅菌のポイントに加え、ヨードアレルギー対応や施設ごとの工夫が紹介されました。慣例的に行われている業務を科学的根拠に基づき見直していく必要性が再認識され、多くの質問や相談が寄せられる活発なセミナーとなりました。開催後にも講師およびアドバイザーの先生方へ質問も寄せられ、個別に回答をして頂き、感謝の声が届いております。昨年度最後はやはり「続・ロービジョンケアにおける看護師の役割について」初めて参加される方に対してもわかりやすく患者さんへの関わりかたの導入方法や障害受容についても高橋先生よりご教授頂き、今後の課題となる問いかけを頂くなど、ロービジョンケアを深めていきたいという声を頂きました。

本年度は、初めて参加された方も多く、繰り返し継続的に開催していくことの意義を再確認いたしました。ご講演いただきました先生方、アドバイザーの皆様、ならびに積極的にご参加くださった会員の皆様に心より感謝申し上げます。2026 年も会員の皆様からのご意見を参考にしながら、視機能看護における課題や学びを中心にセミナー企画と情報交換会をしていきたいと考えております。

2025年ナーシングプログラム 報告

◆第48回日本手術学会学術総会

■日時：2025年1月31日（金）～2月2日（日）

■会場：パシフィコ横浜 会議センター

■テーマ：手術室リスクマネジメントについて

座長 西村 栄一先生（昭和大学藤が丘病院）

大音 清香先生（井上眼科病院）

演者 1.医師の視点から考える眼科手術周術期のリスクマネジメント

吉田 健也先生（昭和大学藤が丘病院）

2.多重業務で繁忙な状況下で起きたインシデントからの学びと取り組みについて

岩佐 好香先生、高橋 晴菜先生、麦島 貴子先生（日本大学病院）

3.眼科専門病院手術室におけるリスクの実際とリスクマネジメントへの取り組み

川野輪 ひと美先生、今泉 亜矢先生、大津 恵美子先生（小沢眼科内科病院）

4.手術室での眼科医療安全に対する取り組みについて

原 夏美先生（ツカザキ病院）

◆第40回JSCRS学術総会

■日時：2025年6月20日（金）～22日（日）

■会場：福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル&ホール

●ナーシングプログラム1

■テーマ：安全管理と接遇、不満例への対応のコツ

座長 小早川 信一郎先生（日本医科大学武蔵野小杉病院）

眞鍋 洋一（大多喜眼科）

演者 1.安全管理における接遇とクレーム対応

伊藤 格先生（市立室蘭総合病院）

2.平穏無事に手術を終えるには？

田邊 章浩先生（帯広協会病院）

3.患者の安心満足を高めるための関わり～看護師の立場から～

松木 靖子先生（真生会富山病院）

4.眼科病院の接遇、クレーム対応について

小杉 剛先生（井上眼科病院）

●ナーシングプログラム2

■テーマ：手術室スタッフの役割

座長 西村 栄一先生（昭和大学藤が丘病院）

演者 1.直接介助看護師の実際

戸田 裕人先生（株式会社中京メディカル）

2.手術室における、医師目線から見た直接介助看護師

栗家 亜実先生（昴会アイセンター）

3.手術室の IOL 管理、データ入力

佐伯 めぐみ先生（慶應義塾大学病院）

4.眼科特殊器具の管理、消毒、消耗品を含む

浅野 泰彦先生（昭和医科大学病院附属東病院）

◆第 79 回日本臨床眼科学会

■日 時：2025 年 10 月 9 日（木）～12 日（日）

■会 場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪） リーガロイヤルホテル大阪

■テーマ：眼科看護の魅力をどう伝えるか！

オーガナイザー 原 岳先生（原眼科病院）

大津 恵美子先生（小沢眼科内科病院）

演者 1.眼科医療チームとして、眼科看護への期待

齊藤 喬之先生（海谷眼科）

2.大学病院の教育的立場から眼科看護の魅力について考える

鉄川 洋平先生（旭川医科大学病院 看護部・8階東ナースステーション）

3.アイセンターの立場から眼科看護の実践を通して看護の魅力を考える

中西 雅美先生（神戸アイセンター病院）

4.眼科に特化した病院において看護の魅力を考える

清水 厚子先生（オリンピック眼科病院）

ナーシングプログラム企画の基礎には、私たち看護師が眼科医療に携わる上で多職種連携、地域連携と患者さんを中心にとりまく環境の中で眼科看護とは何かと問う内容となっています。また各施設（大学総合病院、眼科単科病院、眼科クリニック）でどのような看護、業務が行われているのか？と学会参加した皆様が気になる情報を発信し共有できるように心がけております。

【重要】

学会誌『日本視機能看護学会誌』第11巻より完全電子ジャーナル（Web 発行）への移行のお知らせ

平素より本学会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、日本視機能看護学会誌では、研究成果のより迅速な発信および学術情報のアクセシビリティ向上を目的として、第41回日本視機能看護学会学術総会にて告知し、理事会の決議を経て、**第11巻（2026年度発行）より、従来の冊子体（紙媒体）による発行を終了し、J-STAGEでの公開を主軸とした「完全電子ジャーナル（Web 発行）」へ移行することといたしました。**

本学会誌はこれまでもJ-STAGEにて公開を行ってまいりましたが、今後はオンライン公開を正本とすることで、時代のニーズに即した情報発信の最適化を目指してまいります。

尚、学会誌の冊子体の配布を中止しますが、会員年会費は現状通りとさせていただきます。冊子体の配布を中止により削減できた経費は、現在の事業の拡大や新たな事業の経費とさせていただきます。

すでに1月15日より第11巻の論文投稿受付を開始しておりますが、今後の運用につきまして以下の通りご案内申し上げます。

1. 変更の内容

発行形態： 冊子体（紙による印刷・郵送）を廃止し、電子ジャーナル（PDF形式）として発行します。

閲覧方法： 従来通り、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）にてどなたでも閲覧・ダウンロードが可能です。

対象： 第11巻（現在投稿受付中）に掲載されるすべての論文より適用いたします。

2. 電子ジャーナル化のメリット

迅速な情報発信： 印刷・製本工程がなくなるため、採択から公開までの期間短縮が可能となります。

視認性の向上： 誌面上の図表や写真をカラーで鮮明に掲載・閲覧いただけます。

検索・引用の容易化： 検索エンジンからのヒット率が高まり、国内外のより多くの研究者・実務者に論文が参照されやすくなります。

3. 既投稿者および投稿をご検討中の皆様へ

すでに投稿いただいた論文、およびこれから投稿される論文につきましても、本運用に基づき電子ジャーナルとして掲載させていただきます。冊子体の配布はございませんので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。（※別刷りにつきましては、PDF版の提供を基本といたします。）

本学会は、本変更を通じて視機能看護学のさらなる発展に寄与してまいりたい所存です。会員の皆様におかれましては、何卒ご理解と変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

編集委員会より皆様へのお願い

日本視機能看護学会 編集委員会

会員の皆様におかれましては、日頃より本学会誌発刊に多大なるご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

第10巻では、特別寄稿において、大音清香先生による「日本視機能看護学会のあゆみ」として、眼科看護の変遷から日本視機能看護学会の展望について示唆をいただきました。

今後も、特別寄稿の掲載内容については、例年お願いしております会員アンケート等を活用し、皆様のご意見を参考にしながら検討してまいります。

また、論文投稿については、発刊を重ねるごとに投稿規程と投稿チェックリストを改定しながら、円滑な査読と学会誌の質の向上につながるよう努めております。

投稿していただく皆様には、必ず投稿規程およびチェックリストをご確認いただき、ご準備を進めていただきたく、ご協力お願いいたします。 <https://www.shikinoukango.jp/journal/>

最後に、論文をまとめていただく際には、先行研究の十分なご確認と、文献を活用した客観的な考察に努めていただき、今後も、査読員の先生方のお力をお借りしながら学会誌の質の向上に努めていきたいと考えておりますので、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2026年1月15日より、第11巻学会誌の投稿受付を開始いたしております。

<https://www.shikinoukango.jp/member/exclusive/registration/>

たくさんの投稿をお待ちいたしております。

学会誌のバックナンバーについては、J-STAGEにPDF版を登録しております。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaon/-char/ja>

資格認定に関するアンケート調査結果のご報告

本アンケートは、日本視機能看護学会における資格認定制度創設の検討資料とする目的で実施いたしました。

調査期間：2025年10月12日～2025年10月31日

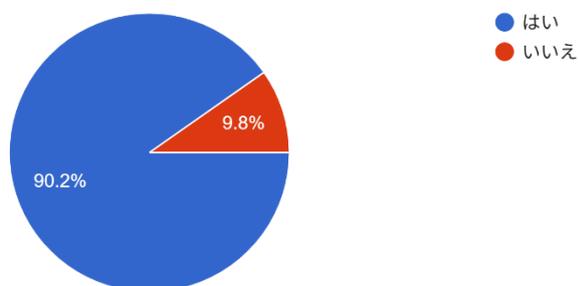
対象：日本視機能看護学会会員および第41回学術総会参加の非会員の皆様

方法：第41回学術総会の総会時に告知および抄録とともにアンケート回答QRコードを配布。

また、学会バンクより会員向け送信メールで一斉告知

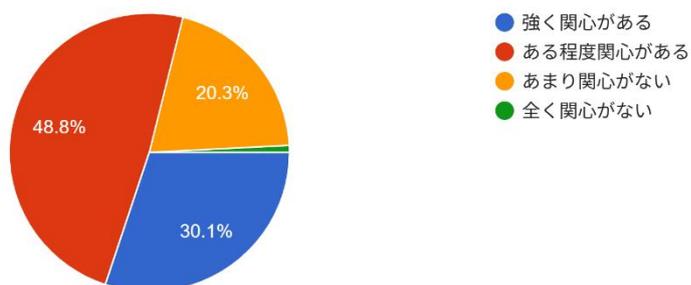
あなたは（准）看護師でしょうか

123件の回答



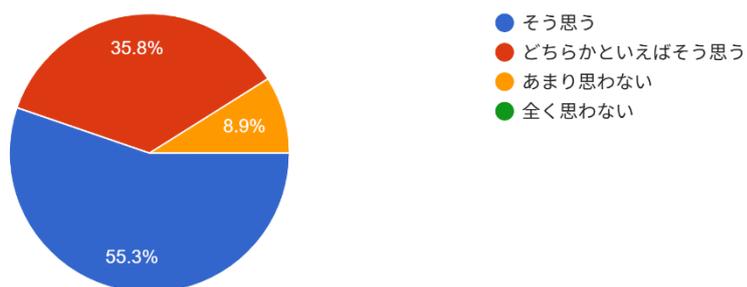
認定制度が設立した場合、関心はありますか

123件の回答



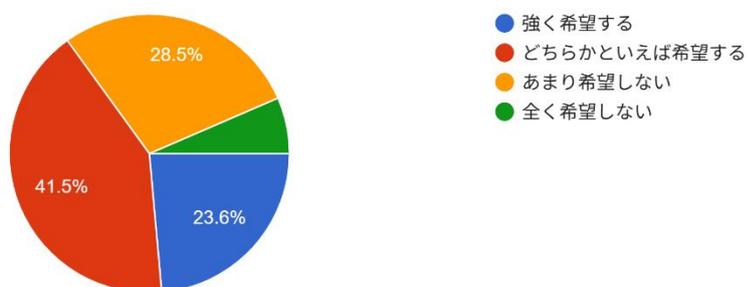
認定制度があれば、職場や社会からの信頼性が高まると思いますか

123 件の回答



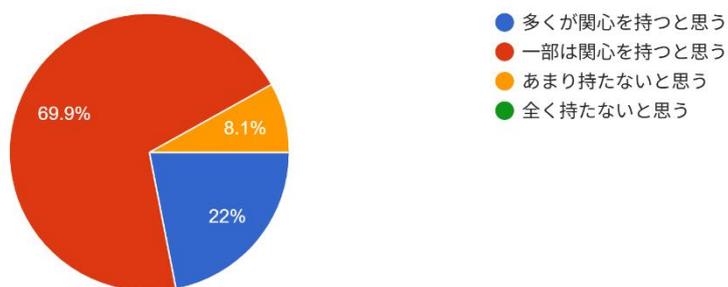
ご自身は、認定制度がある場合、取得を希望しますか

123 件の回答



他の会員や職場の看護師は関心を持つと思いますか

123 件の回答



●その他資格認定制度の発足に関する具体的なご意見やご要望のまとめ

1. 制度発足への高い期待と意義

認定制度の必要性については、回答者の間で強い賛同が得られました。その主な意義が以下の3つの項目でした。

- 1) 専門性の確立：長年の課題であった眼科看護の専門性を高め、看護の質の向上に直結する。
- 2) スタッフ教育：専門的知識をもつ看護師の育成、若手・異動者を含めたスタッフのモチベーションの向上、目標設定の明確化に繋がる。
- 3) 患者への貢献：認定資格が患者からの信頼獲得に繋がり、より安心できる質の高い医療提供が可能になる

2. 今後の検討に必要な主要な論点と要望

制度を実効性のあるものとするため、以下の懸念点や具体的な要望が寄せられました。

1) 制度の社会的な位置づけと実効性

最も重要な論点として、制度の**実効性の要望**に関する意見が多く寄せられました。

- 視機能看護師として、視機能看護の質的向上を明確化することが必要である。
- 他職種との棲み分け：視能訓練士（CO）との業務範囲を明確化し、看護師ならではの役割を確立する必要がある。
- 診療報酬と処遇：制度導入が病院経営のメリットとなるよう、「診療報酬の加算」に繋がるか、また「資格取得による手当」など処遇改善に反映されるかが重要である。
- 上位認定との連携：日本看護協会など、より社会的な権威を持つ認定制度との連携や関係性の連携を図る。

2) 資格の取得・維持に関する要望

- 公正な制度設計：更新制の導入や、認定の信頼性を確保するための条件設定が必要である。
- 多様な取得機会：クリニック勤務者でも取得可能な条件設定や、オンラインでの受講・受験の導入など、取得の利便性を取り入れる。
- カリキュラムの充実：病院とクリニック両方のニーズを満たす実習システムの検討や、洗浄・消毒・滅菌などの医療安全性を考慮したカリキュラムの検討が望まれる。

総括と今後の展望

今回アンケート結果では、眼科認定制度の発足が、眼科看護の発展に不可欠であるという合意を示しています。本学会としては、この意向を尊重しつつ、今後は「地位向上と処遇改善」「他職種との

役割明確化」といった実効性に関わる論点を検討し、「患者への貢献」「専門性の確立」「スタッフ教育」を視野に入れ、信頼性の高い制度構築を進めてまいりたいと思います。

現在、資格認定制度準備会を設置し、各専門分野の先生方にご意見を頂きながらすすめておりますが、教育プログラムやシステム運用をはじめ資金面での課題もあり慎重に協議いたしております。今後、学会運営においては、資格認定制度の設置により有用性を検証していくなど、皆様のご協力が不可欠となってまいります。日本視機能看護学会学術総会をはじめ、各企画への参加と新規入会へのご協力を頂き、視機能看護の発展のためにも、施設会員、個人正会員の継続的なご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

会員アンケートのお願い



今後の視機能看護学会の運営を進めていくうえで皆様のご意見やご要望を教えてください。以下の URL もしくは QR コードよりアクセスして頂きご回答いただきたくご協力をお願い致します。また、他にも随時ご要望などございましたら、広報メール（shikinoukouhou@gmail.com）にご連絡頂くこともできますのでよろしくお願い致します。

（2026 年日本視機能看護学会に関するアンケート回答フォーム）

<https://forms.gle/bEFpsWDhsGVsu8XXA>



一般社団法人日本視機能看護学会 概要

【一般社団法人日本視機能看護学会 役員紹介】

名誉理事長	大音 清香	井上眼科病院
理事長	永野 美香	林眼科病院
理事	加藤 礼	真生会富山病院
理事	肝属 千加子	宮田眼科病院
理事	清水 厚子	井上眼科病院
理事	山嵜 淳	帯山中央病院
監事	大久保 和夫	NPO 法人 HAICS 研究会 副理事長
※事務局	佐々木 昌茂	株式会社ヘルスケアスクエア 代表取締役

■事務局所在地

〒162-0843

東京都新宿区市谷田町 3-8 市ヶ谷科学技術イノベーションセンタービル 2F

一般社団法人日本視機能看護学会

<https://www.shikinoukango.jp/>

新 e-メールアドレス：shikinoukango@shikinoukango.JP

■一般社団法人日本視機能看護学会 定款・定款細則

本学会の規則は、ホームページに公開しております。<https://www.shikinoukango.JP/outline/>

2026 年度 一般社団法人日本視機能看護学会 事業計画

1. 理事会の開催（毎月一回 Zoom 開催）
2. 第 18 回地方分科会の開催
3. Zoom 意見交換会（隔月 Zoom 開催）
4. 第 42 回日本視機能看護学会学術総会・理事会
5. 日本視機能看護学会誌 第 11 巻の編集・発行
6. 関連学会のナーシングプログラム企画立案
7. 日本視機能看護学会資格認定制度準備会の開催（毎月一回 Zoom 開催）

収入の部		2026年度計画	備考
年会費	個人正会員年会費	600,000	6000円×100人
	施設会員年会費	1,200,000	40000円×30施設
	賛助会員年会費	250,000	50000円×5社
参加費	地方分科会	40,000	2000円×20名（非会員）
広告協賛	広告費	0	学会誌11巻(webへ変更)
雑収入	文献サービス	5,000	著作権料
受取利息		100	
	A	2,095,100	
支出の部			
外注費	学会誌	680,000	学会誌（PDFへ移行）
	その他印刷費	100,000	三つ折りパンフレット（資格認定制度で変更か）・小冊子等
	発送等作業	50,000	作業費
	関連事業費	100,000	東京アイフェスティバル・ロービジョンサポートフェア
	法人化特別予算	50,000	一般社団法人諸経費
	資格認定制度特別予算	1,500,000	運営事務局・システム開発費など（未確定）
地方分科会	地方分科会会場費等	50,000	（交通費）
HP管理費		100,000	
事務局委託費		528,000	
事務局賃借		66,000	
会議費		50,000	
事務用品費		30,000	
謝金		50,000	セミナーなど
旅費交通費		100,000	学術総会・地方分科会
通信費		120,000	郵送費
助成金		200,000	第42回日本視機能看護学会
雑費		10,000	
予備費		50,000	資格認定準備会
租税公課		120,000	源泉所得税・法人事業税等
支払手数料		100,000	学会バンク収納代行5.0%
	B	4,054,000	
	収支（A-B）	-1,958,900	資格認定制度に関する費用抜き（-458,900）

編集後記

このたびの地震、火災、山火事など災害により、被害を受けられた地域の方々、そのご家族に、心からお見舞い申し上げます。そして、一日でも早い復旧をお祈りいたします。また 2026 年が皆様にとって幸せでありますように願っております。

2026 年 2 月 9 日 肝属